

**双葉町復興町民委員会 高齢者等福祉部会
ワークショップ 第3回 報告書**

- 日時 平成 27 年 10 月 23 日(金) 13:00~16:00
- 場所 双葉町役場いわき事務所 1階中会議室
座談会会場
① 南台応急仮設住宅第3集会所
② 双葉町町民交流施設「ふたぱーく」
- 参加者 部会員：羽山、田中（勝）、渡邊、羽根田、福岡、田中（順）、
高野、岩元
①南台応急仮設住宅第3集会所の一般参加者：6名
②双葉町町民交流施設「ふたぱーく」の一般参加者：11名
- テーマ 「仮設住宅や借上げ住宅及び避難先での新しい住居での生活のなかで、住民同士で協力できていることや困っていることなどについて、現状や課題を共有し、意見交換しよう」

■座談会の成果

◇南台応急仮設住宅第3集会所グループA

部会員：羽山、羽根田、高野、一般参加者2名

要点

- 双葉の人と交流できるので、南台があるうちはここにいる。
- 集会所を自由に利用できるようにしてほしい。
- 体操の時など、みんなと話せるのが楽しみである。
- 地域の医療サービスについての心配はない。

【カードに書かれた意見】

《これから先どのように生活していきたいか》

- （自治会がなくなったので）職員の常駐している時間以外に集会所の鍵が開いていない。自由に開けられるようにしてほしい。
- 集会所を日にちや時間を決めて、いつでも入れるようにしてほしい。
- 南台があるうちはここにいる。双葉の人と話すだけで楽しい。

《町にしてほしいこと》

- 仮設住宅は大雨の時、雨水が浸水する。堀が浅い。
- 復興公営住宅を借りたくて、空きがある原町（の復興公営住宅）に申込んだが原町の情報がわからない。
- いわきは恵まれているのでここだけで判断できない。白河・郡山・福島・相馬などでも意見を聞くべき。地域によっていろいろ意見が違う。
- 原町は双葉の人が多いのでみんなに会える。

《生きがいや楽しく生活するためのこと》

- 体操の時にみんなの話を聞くのが楽しい。

《仮設から出た時不安なこと》

- 家族のところに行く予定。特に不安はない。
- 復興公営住宅に行く。

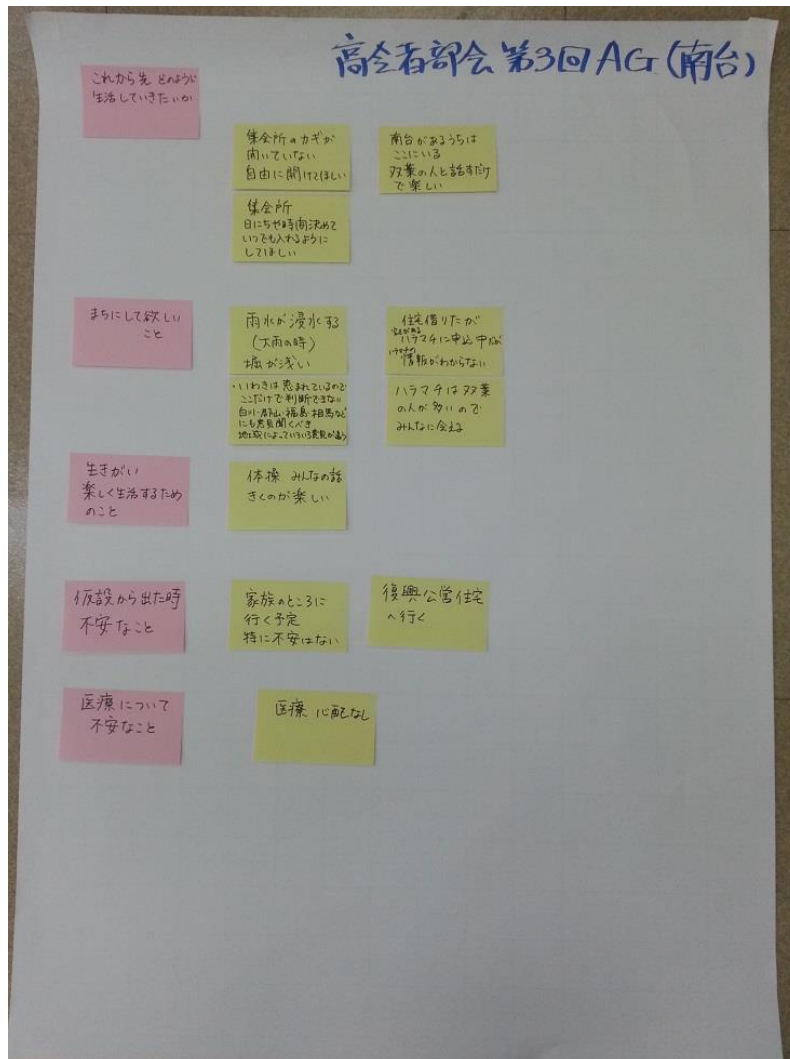
《医療について不安なこと》

- 心配なことはない。

グループワークの様子



ワークショップの成果



◇南台応急仮設住宅第3集会所グループB

部会員：田中（勝）、福岡、一般参加者2名

要点

- 復興住宅が本当にできるのか、不安である。
- 復興住宅のあたりは、買い物や交通が不便そうである。
- 買い物や病院に通うための、送迎バスや路線バスがあるとよい。
- 復興住宅でうまくコミュニケーションがとれるのか不安である。
- 復興住宅で他の市町村の住民とうまくやっていけるか不安がある。

【カードに書かれた意見】

《復興公営住宅に入る予定がありますか》

- 復興住宅に入る予定(2名)。
- 復興住宅に入る予定の人は少ない。場所を見に行ったけど、今でも荒地で期待できない。
- 3年後に本当にできるのか。東京オリンピックが優先になってしまうのではないか。
- 子どもと住みたいが千葉にいて双葉に帰る予定はなので、一人暮らしをするしかない。
- 復興住宅に移る話題が出ていないので、決められない。

《仮設から出た後の生活設計について(住居・家族・買い物生活・全般 etc.)》

- 街から離れている。
- どういう所にどういう医者があるのかわからない。(医療情報が不明)。
- バスが1日3回のみで不便。移動手段のない人はどうするのか。
- (復興住宅では集客が見込めないため) 経営に合わないので出店しないのではないか。
- (復興住宅に移った後の不安として) 移動手段がない。病院へ通うのが不便である。
- (復興住宅に) 病院の送迎バス以外に周辺を循環するような復興バスがあると良い。
- (復興住宅に) 定期的に行き物に行けるバスがあると良い。
- 新潟は復興住宅が駅前にあるので便利。
- 仮設住宅にはお店が少ない(コンビニのみ)。買い物がしづらい。昔より人が減ったから商売が厳しくなっている。
- 既存の復興住宅の先進事例を見に行きたい。

《仮設から出た後の絆・コミュニケーションの取り方・続け方》

- 復興住宅は仮設と違い、ドアを閉めたらコミュニケーションが取り

にくいのではないか。

- 復興住宅にも「ひだまり（サポートセンター）」みたいな場所はできるのか。
- 復興住宅で他の市町村の人と一緒にすることに少し不安がある。

◇南台応急仮設住宅第3集会所グループC

部会員：渡邊、田中（順）、岩元、一般参加者2名

要点

- 仮設住宅で困った時には、遠くの家族よりも、友人や所長を頼っている。
- 仮設住宅に自由に使える集会所がないのは不便である。
- サポートセンターを分散、集約しても、いずれにせよメリットとデメリットがある。
- 畑があると作る楽しさと、交流する楽しみが同時に得られる。
- 健康手帳は、使い勝手が良くない。
- 話し合いの場よりも、計画がどのように実現したかを報告してほしい。

【カードに書かれた意見】

《困った時に電話など連絡できる方は2人以上いますか》

- 夏は救急車の出動回数が多かった。
- 仮設住宅でも体調を崩した方が多かった。
- 体調を崩した時、家族は遠くにいるので、友人を頼っている。
- 所長が甥っ子なのですぐ連絡できる。
- 仮設住宅に長く住んでいる人が多いので、遠くの親戚より近所の方が頼れるが、復興住宅へは行きたい。
- 復興住宅でも近所を頼れる体制を整えてほしい。

《交流の場があれば行きたいと思いませんか》

- 仮設住宅に自由に使える集会所がない。
- 仮設住宅の集会所のカギを預かれない。
- 仮設住宅で交流の場がないのは窮屈。
- 双葉のサポートセンターを集約してほしい。
- サポートセンターを集約すると町民みんなが集まれる。
- サポートセンターを分散すると身近になって行ける利点がある。
- サポートセンターを分散して作っているから町民も分散している。
- 交流拠点はあった方がいい。

《畑があったらやりたいですか》

- 畑で収穫したものを農協へ持っていくのが生きがかった。
- 仮設住宅の敷地でも（畑仕事）をやっている。
- 畑はほっとする。
- 畑は癒し。
- 畑は、作る人も作っている人を眺める人も楽しめる。

《健康手帳を利用されていますか》

- ファイル（健康手帳）は立てである。
- ぶ厚いばかりで使い勝手が悪い。
- 利用率は仮設住宅でも低そうだ。
- お知らせは紙だけ配布ではなく声掛けを。
- 使い方の説明を丁寧にした方が良い。

《全体的な課題》

- 話し合いばかりで（復興の）準備しかできないのがもどかしい。（話し合いをしている割には具体的に復興が進んでいない）
- ワークショップをしても現実がついてこない。無意味。
- 事業計画は、まとめて冊子にしかたけ。実現されていない。
- 4年以上経っても（復興に向けて）踏み出していない。
- （事業計画で）実現したものを報告してほしい。
- 今の課題を解決することが未来へつながる。

グループワークの様子



ワークショップの成果

高齢者寄会 第3回 南台 Cグループ

<p>① 困った時に電話の連絡がとれないという事か?</p>	<p>夏は救急車の回数が多かった</p>	<p>休前預払時 家族は連絡するので 友人に頼っている</p>	<p>仮設は長入りの場合 (補助金あり) 近所に頼れるか 連絡がとれないという事か?</p>	<p>復讐指定でも 医師に頼れる? 何れも!</p>
<p>② 交流の場がなければ 行きたいと思いませんか?</p>	<p>休日に自由に使える 集会所がほしい</p>	<p>分掌のサポートセンターを 集約してほしい</p>	<p>分掌は身体力行が ほしい</p>	<p>交流拠点はある方がいい</p>
<p>③ 火災があったら ヤリたいですか?</p>	<p>火災で亡くなった人の 遺族が来た時に 苦しい</p>	<p>火災は 「あつとある」</p>	<p>火災は 「いやし」</p>	<p>火災 作る人も 助ける人も 禁じめる</p>
<p>④ 健康手帳を 利用して欲しいですか?</p>	<p>ファミレス 立ててある</p>	<p>近い層いばりア 使い勝手がいい</p>	<p>利用率は 仮設でも 低いそう...</p>	<p>お知らせを 紙だけでなく 声掛けを!</p>
<p>全体的な 課題</p>	<p>話し合いの資料 準備しやすくなるように してほしい</p>	<p>ワークショップは20 周年がきっかけで 意味!</p>	<p>実現してほしい 報告して欲しい!</p>	<p>使い方の 説明打寄りに してほしい</p>
	<p>とめて冊子に 入れて 実現してほしい</p>	<p>今年以上 踏み出している</p>	<p>田中 順 源 ナハ 岩元</p>	<p>公本さん (17年大銀) 岩川さん (17年大銀)</p>

◇双葉町町民交流施設「ふたぱーく」グループA

部会員：羽山、羽根田、一般参加者3名

要点

- 医療機関が混んでいて、待ち時間が長いのは大変だ。
- 隣り近所付き合いは、お互いにけん制し合っているみたいで、難しい。
- ゲートボールなどの趣味で誘える人が少なくなってきたのは淋しい。
- 町で開催するゴルフ大会や旅行会が楽しみなので、回数を増やしてほしい。
- ふるさとに早く戻って、元の生活に戻りたい。

【カードに書かれた意見】

《医療について》

- 医者にかかるのが大変。とても混雑しているので待ち時間が長い。
- 町の検診で業者から「バリウムを飲まない方がいい」と言われた。せっかく行ったのに面倒に思われたのか。

《自治会・近所とのおつきあいについて》

- 隣同士の付き合いが難しい。向こうは何も思っていないかもしれないが、引っ込み思案になる。
- 回覧はいわき市のものばかりで双葉町のものがこない。
- お互いにけん制し合っている感じ。

《スポーツについて・今、楽しんでいること》

- ゲートボールなど誘える人がいない。縁遠くなる要因だと思う（趣味の違い）。誘ってくれる人がいると良いのだが。
- 町でやる老人会のゴルフ大会（年1回）が楽しみ。庶民に旅行は縁遠いので、旅行会を年4回くらいに増やしてほしい。

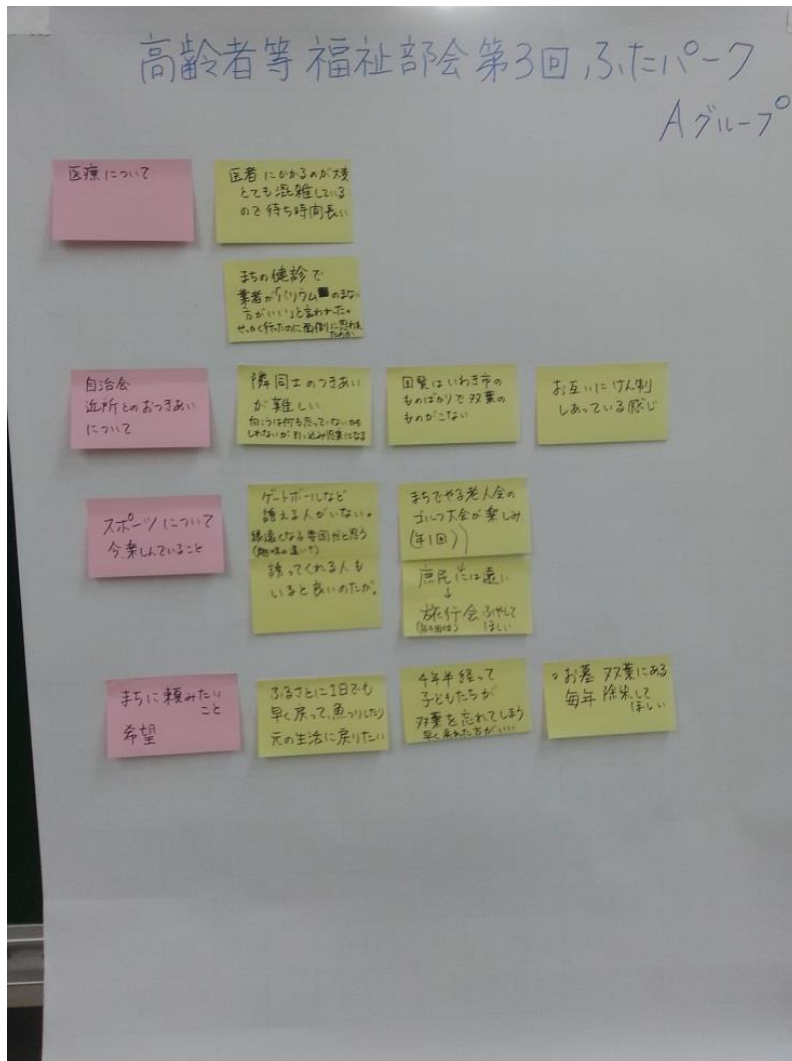
《町に頼みたいこと・希望》

- ふるさとに1日でも早く戻って、魚釣りをするなど、元の生活に戻りたい。
- 4年半経って子どもたちが双葉を忘れてしまう。早く戻れた方がいい。
- お墓が双葉にある。毎年除染してほしい。

グループワークの様子



ワークショップの成果



◇双葉町町民交流施設「ふたぱーく」グループB

部会員：田中（勝）、福岡、一般参加者3名

要点

- 認知症の高齢者が増えているので、ケアが大切である。
- いわき市は広いので、交流拠点を北・中・南の3か所に必要だ。
- 参加者を交流拠点に送迎するバスが必要である。
- 仮設住宅から復興住宅へ移ると、高齢者の中に孤立してしまう人が出るのではないか。
- 核家族化が進んで、高齢者は健康など自己管理が求められるようになる。
- 町の職員に双葉町の人がいないと話しにくい。

【カードに書かれた意見】

《高齢者とは》

- 支援が必要な方。
- 認知症の方々が増えるなか、どうケアしていくか。

《交流拠点について》

- 交流拠点を作っても移動手段がないので、本当に集まるかわからない。
- いわき市は広いから、交流するにしても交通が不便。
- （いわき市内に）北・中・南の地域ごとに集まれるバスと拠点があると集まりやすい。
- （いわき市の）北に拠点がほしい。
- 参加してもらうために移動手段が必要であり、本日のような機会に出てこない方が問題。
- 出てこない人は見守り支援をすることも必要ではないか。訪問が必要（社協がしている）。
- 趣味（スポーツ）ができる場があると集まりやすい。

《復興住宅》

- 復興住宅は孤立してしまう。仮設住宅に戻りたい人もいる。
- 高齢者は、若者よりコミュニケーションがとりにくい。
- 借り上げ住宅に住んでいる方は、地元の方とのコミュニケーションを取って生活することに慣れている。

《核家族化》

- 核家族化が進み、一人暮らしの人も増えている。ただ、子どもの世話にはなりたくない。ならないようにする為にはどうすれば良いか。
(健康でいる為にも交流が必要。交流をしない人のところにも訪問看護でケアすることが必要になってくる。)
- 自己予防が必要。
- 健康寿命を長くする施策が必要。

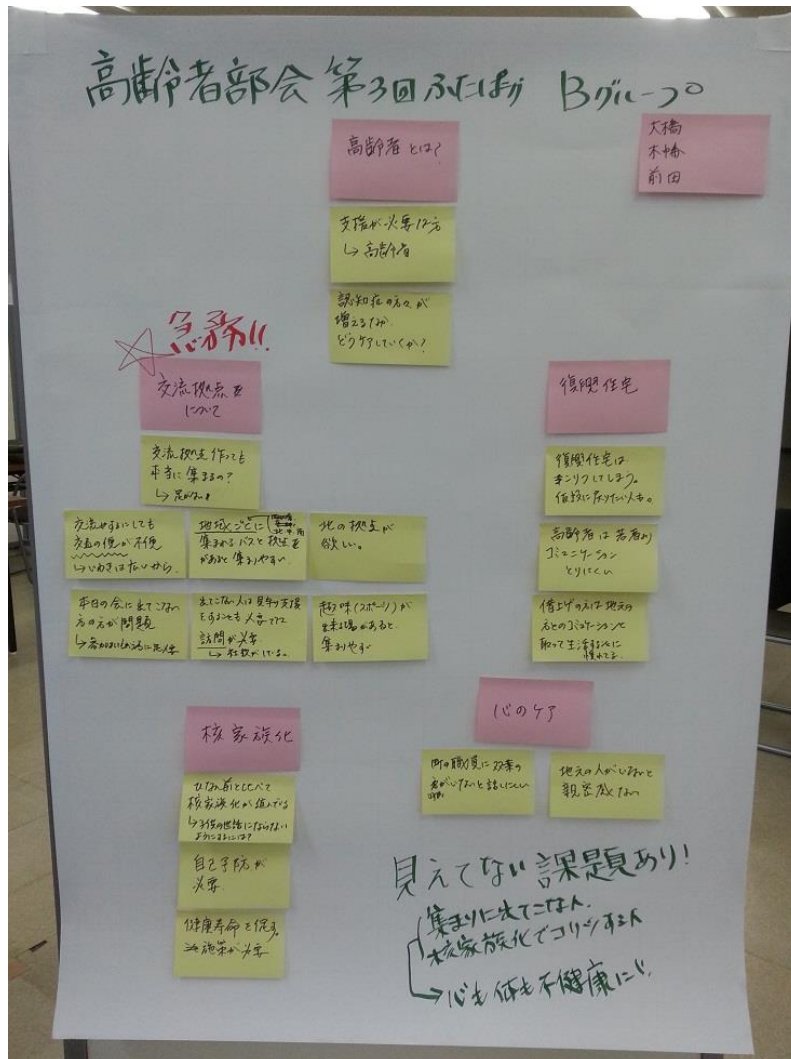
《心のケア》

- 町の職員に双葉町民がいないと話しにくい。
- 地元の人がいないと親密感がない。

グループワークの様子



ワークショップの成果



◇双葉町町民交流施設「ふたばーく」グループC

部会員：渡邊、田中（順）、一般参加者3名

要点

- いわき市では周囲に気を使って生活しなくてはならない。
- 避難先住民とのコミュニケーションには、動物と畑が効果的である。
- 交流の場は各種行事があると参加しやすい。
- 交流の場に参加できるようにマイクロバスなど交通手段を用意してほしい。
- これから年を取ると、遠くの医療機関まで通うのは心配である。
- 健康手帳のことはよく知らない。
- 墓の話が進んでいない。

【カードに書かれた意見】

《双葉にいた頃と今の生活で一番変わった事は何》

- 気を使って生活しなくてはならない。
- （いわき市の）平に引っ越したが声掛けもない。
- 犬のおかげでコミュニケーションが取れている。
- 双葉から来たことを隠さず、引っ越し挨拶に回ったのが良かった。
- 避難先住民とのコミュニケーションには、畑と動物が効果的。

《畑がある事の効果》

- 畑でできたものを近所の人がかぐださいと声をかけてくれた。
- 畑でとれたものを近所にお裾分けし、心の癒しになっている。
- 今の家を探す時、畑がある土地に決めた。
- 畑がある場所は会話も増える。
- 避難先住民とのコミュニケーションには、畑と動物が効果的。（再掲）

《交流の場があれば行きたいと思いますか》

- （いわき市）南台の趣味の集まりに参加している。
- 交流の場は行事がある方がいい。
- 郡山の神楽をやりたい。
- （交流の場が）あれば行きたい。
- （この座談会に来た人でも）ふたばーくに初めて来た方が多い。
- 大字地区（避難前に住んでいた地区）の集まりは参加率が高い。
- 通夜・葬儀に行けば双葉の方に会えるかとも思い参加している。
- 参加者がだいたい想像できる。行事は参加者が多いので、そういった行事を増やす。
- 仮設住宅などで、移動手段がない方は出かけ難いのではないか。
- マイクロバスを出すなどしてほしい。

《医療環境は十分ですか》

- 20～30km離れた医療機関でも慣れたところの方が安心。
- 病院は質が決め手。
- これから年を取ると、遠くの医療機関へ通うのは心配。
- 安心して任せられる近くの医療機関を紹介してほしい。

《健康手帳を利用されていますか》

- 健康手帳を知らない方ばかり。
- 健康手帳が引っ越しでどこに行ったか分からなくなった。
- 健康手帳の便利さをより説明すれば活用されるはず。

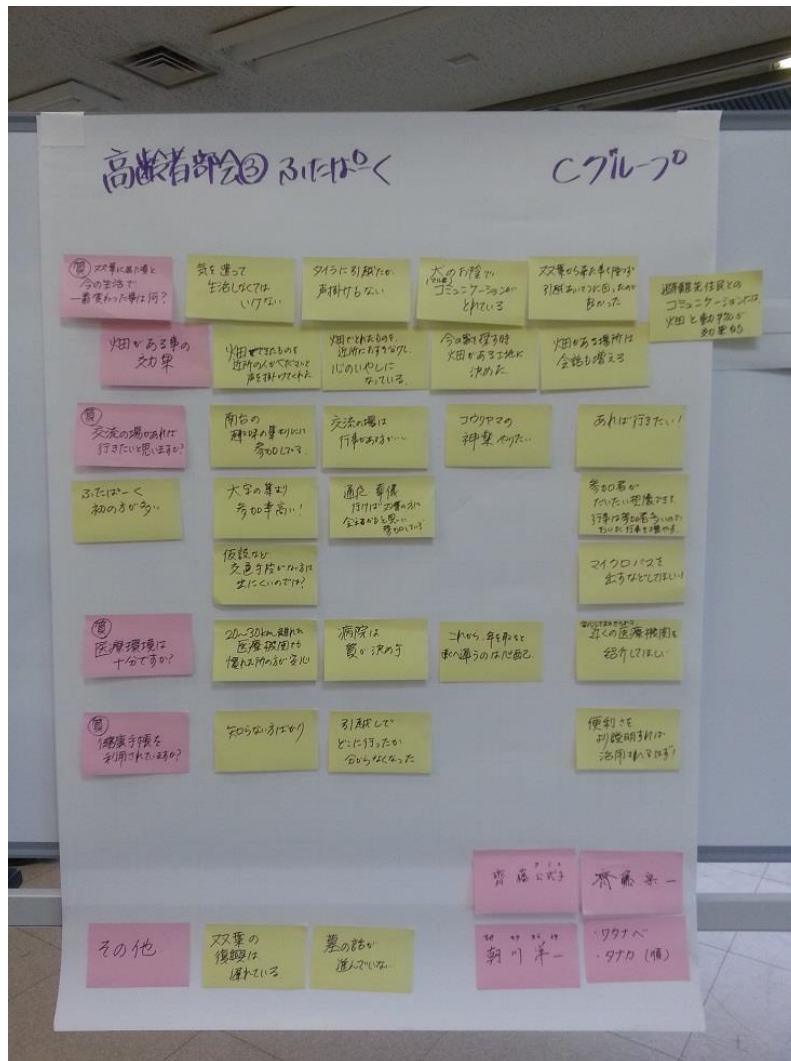
《その他》

- 双葉の復興は遅れている。
- 墓の話が進んでいない。

グループワークの様子



ワークショップの成果



◇双葉町町民交流施設「ふたぱーく」グループD

部会員：高野、岩元、一般参加者2名

要点

- いわき市内には集会所が3つ必要だ。
- 支援員や集会所スタッフに、双葉の人が入ってほしい。
- 地域の隣組に参加し、農産物をお裾分けして、交流している。
- 支援バスのことがよくわからないので、常磐交通の路線バスを利用している。
- 生きがいとは、毎日同じことを繰り返すことである。
- いわき市内では医療機関の不足は感じない。
- 健康データは医者や定期健診でたくさんもらっているのに、健康手帳は使っていない。

【カードに書かれた意見】

《借上住宅の人が集まれる場所がありますか》

- いわき市内に3つ集会所がほしい。
- 支援員や集会所のスタッフには双葉の人が必ず入ってほしい。
- 双葉の人と直接会うとほっとする。

《地域との交流をどのように進めていますか》

- いわき市の隣組に入っている。
- 近所に双葉町の人が住んでいるとほっとする。
- 近所の人のお畑を借りて野菜を作り、お裾分けしてお付き合いしている。

《積極的に外出されていますか》

- 国の事業は終了予定だが、支援バスは役場に申請すれば、乗ることができる。
- 支援バスはあまり利用していない。常磐交通のバスを利用している。

《生きがいづくりにどのように取り組んでいますか》

- 生きがいは、毎日同じことを繰り返すこと（お茶、食事、買い物、TV、40分の散歩）。
- 毎日が忙しい（区長の仕事、除染のこと、人の世話）。
- 認知症予防で川柳を1日4首作る。
- 避難先で死にたくない。双葉へ帰って死にたい。
- 散歩するのが好きだ。林があるとよい。双葉は良かった。
- お畑の作物づくりが楽しみだ。
- 早く特養老人ホームができてほしい。安心して暮らせる。

《医療機関が不十分ですか》

- いわき市内では、医療機関の不足は感じられない。
- かかりつけの医者が健康検査データをしっかり見ている。
- 健康手帳を使う必要はない。お医者さんに任せてある。
- 町の定期検診を目安にしている。

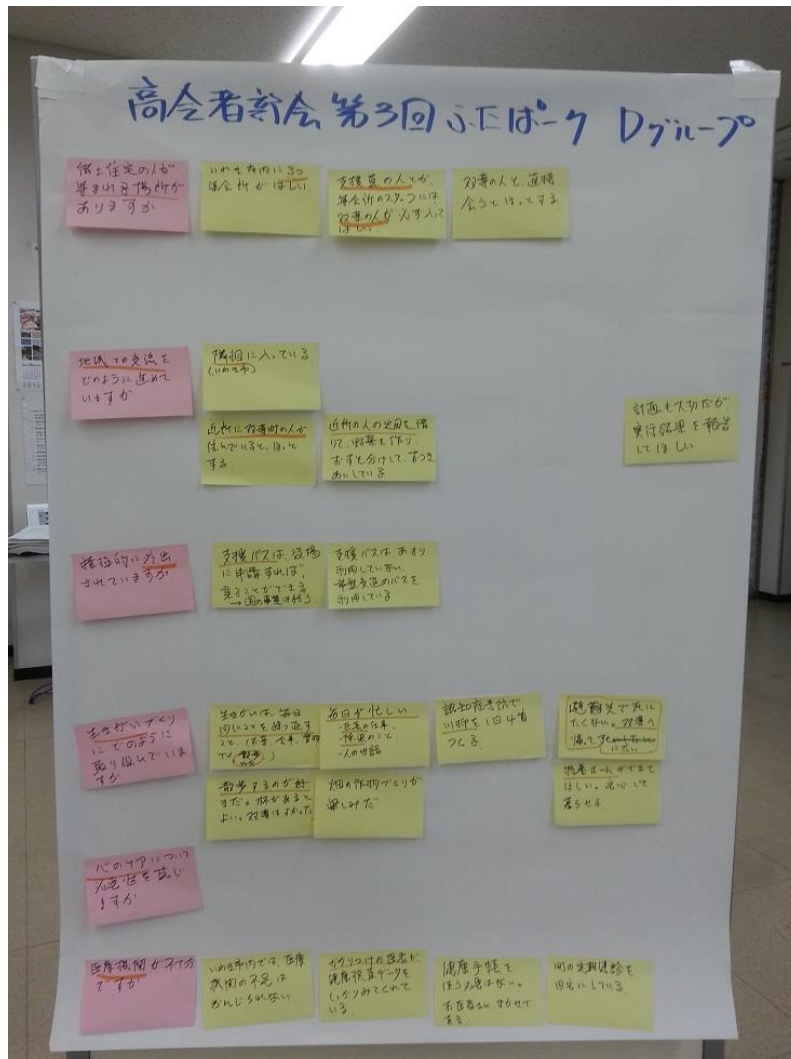
《その他》

- 計画も大切だが実行結果を報告してほしい。

グループワークの様子



ワークショップの成果



■座談会全体を通しての所感（金子氏）

- 仮設住宅は双葉の人と交流できるので、できるだけ残りたい。
- 仮設住宅の集会所をもっと自由に使えるようにしてほしい。
- 高齢者の中で認知症の人が増えているので、心のケアが必要だ。
- いわき市は広域なことから、3か所の集会所が必要である。
- ゲートボール等の趣味で誘える人が周囲に少なくなってきたので、町主催のゴルフ大会や旅行会の回数を増やしてほしい。
- 復興住宅は買い物と交通が不便そうなので、移動手段を確保してほしい。
- 復興住宅で他の市町村の人とうまくコミュニケーションできるか不安である。
- 避難先住民との交流は、犬などの動物と、畑で採れた野菜の提供で、うまくいっている。
- 地域の医療サービスについて不満はない。
- 医療機関や定期健診のデータがたくさんあることから、健康手帳は使われていない。
- 話し合いよりも、計画の進捗と結果を教えてほしい。